

平成27年度第1回 角館地域審議会議事要旨

日 時 平成27年7月31日(金) 10時00分～11時30分
場 所 角館西側庁舎 2階 第4会議室
出席委員 小林郁男会長、後藤瑞子副会長、草薨隆委員、能美忠堯委員、
石橋正則委員、津嶋紀委員、黒澤昇委員、柴田政幸委員、吉田慎一委員
高橋栄委員、石川東平委員、新山睦子委員 12名

欠席委員 藤原悟委員 1名

仙北市関係者

副市長 倉橋典夫
総務部長 藤村好正
角館地域センター所長 大澤龍太郎

事務局

総務部次長兼企画政策課長 平岡有介
企画政策課課長補佐 村瀬克広
定住対策推進室長 大山肇浩
定住対策推進室室長補佐 阿部聡
定住対策推進室主任 柏谷有紀

- 会議次第
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 副市長あいさつ
 4. 案件
 - 1) 総合計画基本構想(案)について
 - 2) 新市建設計画の変更について
 5. 閉会

内 容

■会長あいさつ

おはようございます。お忙しいところ、また暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。資料をいただいてから忙しくて目を通すことができませんでしたが、平成28年から37年という10年の長い期間にわたる総合計画ということで、仙北市にとっても非常に大事な10年になるかと思えます。そういう意味も含めまして皆様から貴重なご意見をいただきながら、良い審議会になるように努めていきたいと思えます。皆様のご協力をお願いしたいと思います。

■副市長あいさつ

おはようございます。暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。

先週の土曜日は大変な大雨にみまわれましたが、仙北市内で特に降ったのは角館周辺で大変心配したところだと思います。一部被害等もありますが、大災害にはなりません。今後も災害対応はきちんとしていきたいと思っています。ただ、実際は渇水状態が続いています。玉川ダムの水も危機的な部分がありますので、今後も情報提供に努めていきたいと思っています。

さて、今日の審議会ですが小林会長からお話がありましたように、市の総合計画について皆様からご意見を伺いたいと考えております。これから説明がありますが、合併して10年が経ちまして、今後10年を見据えた計画を作っていくという準備をしています。この前の10年から大きく変わったことは2つあると思っています。1つは国で進めている地方創生です。地方版総合戦略という計画作成を各自治体で行っています。この中で仙北市としてどういった施策をしていくかがポイントになると思います。特に仙北市は地方創生特区の指定を受けるということで、正式には9月以降に国の政令で指定されることとなります。その後具体的な事業が検討されるということになっています。また、もう1つ大きな点としては人口減少が加速度的に進んでいます。各世代の人口が減っていくわけですが、特に子供の数が減っていきます。現状のままでは何十年か後には、仙北市全体で子供達は何十人単位しかいないという推計になります。人口減少はさけられませんが、減少速度をいかに鈍化させるかということの施策が必要と思っています。子供が少ないということは、若者がいないということです。若者がいるためには、雇用の場が必要といろいろなことが考えられると思います。そうしたことも含めて皆さんからいろんなご意見を伺って計画に反映していきたいと思っています。既に、西木、田沢湖地区の審議会を開催しておりますが、広範囲な分野にわたるため1回だけで意見集約という訳にはいかないと思います。必要によっては回数を増やして開催したいと思っています。いずれにしても皆様から様々な分野についてご意見いただいて、これからの10年を考えていきたいと思っています。よろしくお願いします。

■案件

1) 総合計画基本構想(案)について

1次総合計画について

平成18年12月に策定。現在計画は「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市を目指して」を将来像に掲げて、交流をキーワードにまちづくりを進めている。※これまでの取組内容を紹介。

資料1に基づき説明

総合計画策定の趣旨

総合計画の構成と期間：基本計画10年。前期、後期で5年づつに分ける。

平成28年度～平成37年度までの10年間。

仙北市の特性と課題や、平成26年度に実施したまちづくりアンケートの調査結果から、まちづくり基本理念を「健やかに美しく輝くまち」にし、8つの柱を設定。そして都市像は「小さな国際文化都市をめざして～市民が創る誇りあ

るまち～」として検討中。後段文書については、事務局原案のため確定ではない。

都市像について

人口減少が著しい社会情勢になっており、国内市場でも人口減少により交流人口の減少がみられる。そういった状況を踏まえ、国外からの交流人口を誘致するために小さな国際文化都市とした都市像を掲げることにより、先の計画である観光産業を活かした北東北を目指すという考え方を継承し、さらに磨きあげることで次のステップに進んでいきたいと考えている。

基本構想（案）について一読いただき、意見がある方は配付様式に記入のうえ提出をお願いしたい。意見集約期限は8月10日（月）。

小林会長

事務局から説明がありました基本構想（案）について、審議したいと思います。前もって資料をいただいていますので、それなりに目を通してきてくれたと思っています。それでは1人ずつ意見を述べてもらおうと思います。

高橋委員

少子化という部分についてです。これからも子供の数が当然減っていく訳ですが、この町からこれまで出て行った人が帰ってこられるような取り組みが必要なのかなど。例えば子供達がスポーツをやるといっても、角館高校が甲子園にいつて、角館中学校がベスト8まで進んでいますが、将来的にここで未来があると思えるのであれば良いと思います。大きい球場を仙北市に設置して、プロ野球やサッカーなど、子供達に夢を与えられるような環境があれば良いと思います。文化は仙北市はすぐれていると思いますが、地道に子供達を増やしていくとなれば、子供達に少しでも夢を与えるような取組を行ってもらえれば助かります。

石川委員

花葉館としても交流場、コミュニティの場として皆様が利用しやすい場作りに取り組んでいかなければならないと思っています。それから、歴史文化遺産の活用とありますが、私もまったく同じ意見です。歴史文化の情報発信の強化や体験を増やして、観光客の滞在時間を延ばし、地元の方も何か聞かれたら笑顔で親切に答えられる状況ができれば、ファンも増えて、観光客が増加していくのではないかと思います。そうなれば住んでいる方も誇りに思い、地元を愛し、定住につながるのではないかと思います。

新山委員

つい先日、五能線で鱒ヶ沢まで行ってきました。戻ってきて感じたことは、青森はオール青森で考えていました。オール秋田っていうのを

もっと仙北市でやれないのかなと思いました。仙北市を宣伝で出す場合は、外の方々はオール秋田状態で見ていると思います。例えば、仙北市にきてもなまはげが見られるとか、竿灯が見られるなど。観光産業でいくのであれば、そういったところも取り入れて、生保内節や梵天、ささらも担い手・人材不足なので、もっと強化していった方が良いのではないのでしょうか。観光に力を入れるとなれば、そういった分野にも広げていってほしいと思います。

草薨委員

私も昨日まで青森に行ってきました。私が感じているのは、仙北市というのは他にないものが数多くあると思います。それらが備わっていることで地方創生特区にもなれたんだと思います。これを大きなチャンスとして、食あるいは、定住、産業振興といった「住みたくなるまちづくり日本一」というのを目指しても良いと思いました。食に関わる仕事をしていますので、やはり安心・安全は徹底しています。思うように作れない生産者もおりますが、それらをどんな形で内部、外部に発信していくかと。その場というのは、観光なりとリンクできると思います。この後の創生特区にあわせた中でどう関連していくかが大事だと思います。今後、市の方でも遊休施設がでてくると思います。それを活用した中で、どう盛り込んでいくか。あるいはこちらに来てもらい、触れてもらい、この場所の魅力を知ってもらうためには、やはり食もあるし、宿泊関係、民宿もあると思います。良い食と、癒しの空間がありますので、もっと人がくるのかなと思います。そういった対策を創生と絡めてもってほしいと思います。

能美委員

多岐にわたって単純に話せることではありませんが、今台湾や中国、外国に力をいれるような体制になっているようですが、私達はそういった対応ができません。言語などの問題があります。市民に対して基本的な案内の方法など、訓練する場所が必要だと思います。私たちが直接言葉で仙北市の特徴を中国語等で説明出来ないという状況です。それについては市をあげて市民全体でやると楽しく対応できるのかなと思います。

石橋委員

仙北市が景観行政団体になり、昨年景観計画を策定しました。順調にいくと来年の春から条例が施行されるという予定のようです。いずれ景観をいかしたまちづくりというのが多く盛り込まれています。ご存知のとおり仙北市には武家屋敷があります。伝建群でないところも、かなり重要な景観が残っています。それは町の中の商業地区である外町もそうです。その中に歯止めをかけていきながら、新しくまちづくりをしていくかということだと思います。計画の中には独自のルールを作っていく、それを活かしたまちづくりをしていきたいと思います。

取組になっているはずですが、ぜひそれに関しても盛り込んでいただいて、農村景観、自然景観、水路、湖、川も含めて、今まで守ってきた景観をこれからも守っていき、それを活かしたまちづくりをしていくことが、潤いある生活、人を呼べる環境になると思います。ぜひ景観計画とリンクしながら作ってもらいたいと思います。

津嶋委員

私が最近感じたことを申し上げます。農業振興とうたっていますが、耕作放棄田が非常に多くなってきています。2～3年で何十町歩になるかわからないほどです。この対策を早急に、今手を付けておかなければ将来大変なことになると思います。それから、私は森林組合の代表ということですが、最近若い人が山に入ることがなくなりました。それと自分の山の境界がわからない人が多くなっていきます。山の荒廃もさることながら、所有地の境界を知ってもらうということも必要だと思います。

黒澤委員

この会議は仙北市の中の角館について議論する会議と思っていました。今日説明を受けてですが、これまで行ってきた過去10年間の計画について、正直どういった計画を出していたのかわかっていません。その計画を見せていただきたいのと、それに対する検証をいただければありがたいです。この総合計画の中で角館でやらなければならないものを、今後具体的な内容で決めていくということになると思います。旧角館は都市計画があったと思います。その都市計画の中にも工業地区がないなど、いろんなことがここに関わってくるがあると思います。そういったことも含めて案を行政から出していただいて、民意を反映できるような会議になれば良いと思っています。

小林会長

大変貴重な意見だと思います。前の10年間を検証した資料については、事務局で対応してもらえるようにお願いします。

黒澤委員

最初10年間の計画については、ほとんどの人は知らないと思いますので、それもお願いします。

倉橋副市長

西木の地域審議会からも同意見をいただいています。この構想の中にもこれまでの検証に触れなければ、次の計画につながっていかないということで、事務局へも検証成果を掲載するように話しています。最初10年間の計画ですが、最初の合同審議会でも概略版を配布しておりますので、ご確認いただきたいと思います。

柴田委員

私の持論ですが、北浦地区、角館もどちらかというと農業で成り立ったまちです。そこが根底にあると思います。現在農業がどのような状

況にあるかというのがほとんどわからない状況です。角館ではどんな農業の形態で行なわれているかがわかりません。私の従兄弟から玄米がほしいと連絡がありました。私は農協に電話しましたが、作ってませんということでした。探したら他市町村で玄米があり、そこから送ってもらっています。そういったことで現在の農業はどのようになっているのでしょうか。それと観光です。観光のアピールはみんなしています。しかし私がほしいのは、この計画をしたときに角館はどのように潤ったのかということです。どのように潤って、どうなったのかという結果が見えません。また観光オンリーではこの町は厳しいと思います。なぜかと言うと、人が多い時はJRの安い切符の時です。しかしお土産も買わずに帰っていきます。今までの取組の結果から次に結び付けていくという経過が見えません。私は伊勢に行ってきましたが、観光タクシーでここで伊勢うどんを食べれば良いというアドバイスで、そのお店に行ってきました。何を感じたかと言うと、伊勢うどんのお店は本当に小さいお店でしたが、地元の人が食べていました。角館で考えたときにそういった所はあるかなと考えました。今聞きたいのは、角館の観光はどういった方向にいかようとしているのかということです。文句ばかりですみませんが、一緒に進めていかようとする姿勢がなければだめではないかと思います。具体的にどうと言われても、申し訳ないですが案はもっていません。

倉橋副市長

草薨委員は私よりも詳しいと思いますが、私のわかる範囲でお話します。今直面しているのは、米価の下落です。これによって農家に混乱をきたしているということです。またTPPの交渉が大詰めを迎えておりまして、これによつては畜産農家等にかなりの打撃が見込まれます。米価は下がっていますが、今年も豊作になる可能性があります。ただ、仙北市全体では、国の生産収量はクリアしております。ということは、米以外の分野に取組む面積が増えているということは間違いないと思います。野菜のメガ団地等もJAさんで進めています。これを行っていくには個人の農家ではなかなか厳しいと思います。そのため農業生産法人を立ち上げて、いろいろな試みをされている方は増えています。こういった部分にシフトしていくのかなという認識があります。角館でも各種法人で椎茸、薬草についても取組んでいます。いずれこれからは基盤整備が進むところは農業生産法人が大部分の農地を担っていく方向にならざるを得ないと思っています。そこに問題があるのは、耕作放棄地です。これをどう解消していくかは大きな問題だと思います。国家戦略特区の一番最初に指定を受けた兵庫県の養父市では、法人の設置要件を緩和して、大手の企業が生産法人として参入し、生産をはじめようとしています。ただ、農地だけ提供して、大きい会社だけが儲かるということは、仙北市のためになりませんの

で、地域の方が潤うものでなければならぬし、地域の方が参画するものでなければならぬと思っています。特区指定は良いですが、そこについてはきちんとしていきたいと思っています。

後藤副会長

どういった目線でお話しすれば良いか考えていました。先ほど柴田委員がお話しした、JRの安いチケットの時に多くの方がいらっしゃるということですが、確かにまちに人があふれます。うちの2つのお店でどちらにお客さんが入るかとなれば、やはり安いチケットできた人は安いものを食べます。なのでうちでは食堂をPRしています。ただ、角館で徐々に増えてきている方は、年に数回訪れて、それぞれのお店と親しくなり、親戚同様に付き合っています。そうして農協で行っている花咲きの里さんで何かを買って帰るといふ方が増えていると聞きました。6次産業を求める方も多いですが、6次産業に走りすぎて、旬のものが思う様に手に入らないということも良くあります。お米の話もでてましたが、私も玄米を頼まれたことがあり、その時は西木の方から送ったことがあります。ただ、農協さんにお問い合わせすれば、探してくれることもあります。前とは変わったなと思いついていて、それと新山委員が話していた、青森にいけばオール青森で、どこに行っても津軽三味線が聞けるとなればすごいと思います。しかしそれでは、特徴がなさすぎて仙北市は違うのではないかなと思います。仙北市は他にはない温泉があり、特区になるし、とにかく駒ヶ岳にいて綺麗な花が見れると、そして田沢湖があると。よくお客さんにセッティングしてほしいと言われますが、あまりあつて迷います。秋田の顔は仙北市なんだよということをもっとPRできるためには、オール秋田に仙北市はならなくても良いのではと思います。ただ、年に1回程度なまはげが来たら面白いとは思いますが、まとまらなくてすみません。

小林会長

私からはケチをつける訳ではありませんが、資料にある項目の位置についてです。②4) 耕作放棄地の有効活用はこの項目ではおかしいのではないのでしょうか。むしろ⑥でないのでしょうか。ここには交流人口を増やして定住化を促進するなどを追加したらいいのではないかなと。個人的な意見です。

2) 新市建設計画の変更について

資料2に基づき説明。※資料3は配付のみ。

新市建設計画59ページの下線文章の変更について説明。今後、県と調整しながら、合併特例債が利用できるような内容にする。

新市建設計画を変更する際は、地域審議会に意見を伺うということになっている。
最終的には議案となり議会から判断をいただく。

- | | |
|--------|--|
| 小林会長 | 質問等はありませんか。それでは吉田委員から発言をお願いします。 |
| 吉田委員 | 新庁舎建設についても何にもそうですが、市長が最大の権限をもっています。市長の任期中にやろうと思ったら、最大の権限を発揮して進んでほしいと思います。議会とも相談しながら提案したものを押し通すという強い気持ちで進んでもらいたいと思います。 |
| 高橋委員 | 新しいものを建てるということは良いことですが、住民のたらい回しになるような計画はやめてもらいたいと思っています。私は大仙市にも田んぼを持っていまして、農業委員会にも顔を出しています。中仙町にも農業委員会がありますが、結局神岡の庁舎に行って書類手続きをしました。その前に私が仙北市の住民なので、仙北市の農林部にいき、今の私の経営規模を示したものを大仙市にもっていきました。中仙で済むと思えば、ここでは受けるだけということで神岡までいかなければなりません。新しいものを作るのは良いですが、たらいまわしにするようなことは無いようにしてもらいたいです。 |
| 石川委員 | しかるべき場所に建ててもらいたいと思います。今の構想どおり建設してもらえればと思います。 |
| 新山委員 | この件については良くわかりませんが、ネットを使ってでも簡単に市民がわかるような状態にしてもらえればと思います。出向く場合でもお年寄りが、ここじゃないと言われても別の庁舎までの移動がたやすい状況であれば良いと思います。とにかく市民に対応が優しく使いやすければ良いと思います。 |
| 草薨委員 | 最初の現状、必要性、タイミングを考えても妥当と思います。一番不安なのは、サービス低下にならないようにしてもらいたいです。 |
| 能美委員 | 岩瀬北野線は今年完成しますか。それと庁舎面積が1万7千というのは、この平面図に入っていますか |
| 藤村総務部長 | もう1年くらいかかるかもしれません。庁舎面積は、市の所有している部分です。 |
| 能美委員 | この駐車場は市の所有ですか。 |

藤村総務部長	市の所有しているところで1万7千です。道路の向こう側は入りません。
事務局平岡課長	駐車場の奥は市有地です。手前の土地については、3名の地権者から借りています。
能美委員	そうであれば良いです。職員駐車場は離れていても良いですから。それと中町庁舎については、ここに書いてあるとおりですか。
藤村総務部長	北都銀行さんとは今交渉中です。
石橋委員	駐車場の問題と駅からのアクセス、バスについてきちんとしてもらいたいと思います。本当は駅からまっすぐ道路があればいいとは思いますが、いずれ皆さんにとって利便性が良いことを第一優先にしてもらいたいと思います。
津嶋委員	高橋委員がお話ししましたが、たらいまわしの無いような庁舎にしてもらいたいです。私はこの前、観光課に行き、角館庁舎にいつて印鑑証明もらって、今度は西木にいきと1日かかりです。こういった庁舎の在り方はやめてもらえればと思います。
黒澤委員	いずれ新庁舎を建てることになれば、いくら安いといってもお金を借りることなので、借金が増えるということは確かだと思えます。ただ、3庁舎とも大変古くなってきていますので、新たに1つのものを作るということにまったく反対するものでもありません。皆さん話されたように、たらいまわしが無くなれば非常にありがたいと思えます。ただ、国でも進めているマイナンバー制などの問題がでてきて、特に庁舎にいかなくて済む様な時代がくるのかなと思えます。パソコンなどを使えない人にとっては、不便な制度なのかと思いましたが、今の若い人たちはパソコンも使えますので、そういった世界になっていくとすれば、そんなに不便を感じないのかなと思いました。庁舎の中で働いてもらう職員の方々には、3つに分かれているよりかは、1つにまとまって仕事してもらう方が効率的にはなると思えます。そのあたりは賛成していきたいと思えます。ただ、旧庁舎の有効利活用については、ここにも書かれていますが、きちんとしていってほしいと思えます。
柴田委員	皆さんに話されて話すことは無いのですが、今までは右肩上がりでも何とかなる時代でしたが、今一番心配しているのは、学校の統合はどうなるのかです。これから統合するとなれば予算関係で補助金はないと

思います。そこをみこして美郷町は既に完了しています。そうなれば役場を1つにしても、今の機能をもって、借金が少なくすむとなれば早めに作った方がよいと思います。問題なるのは、公共交通機関です。みんなが車をもっていないと思います。そこに行ける公的機関があるなどを管理していく必要があると思います。そういったことを考えたうえで庁舎にしてもらいたいと思います。

能美委員

今柴田委員がふれましたが、高齢化社会になっているということで、病院と庁舎がそこに出来るとなれば、市内循環というか、町内を回るバスは考えていますか。

藤村総務部長

庁舎よりも病院が先に移るということで動いていますが、そこについては、まずバス事業者である羽後交通さんの考え方を伺いたいと思っています。採算がとれるものであれば民間で行ってほしいと。間に合わないという部分については、市が関わるということになります。今年から、仙北市全体の公共交通の在り方について計画を作ることになっています。今検討を始めたばかりですが、公共交通網の整備計画を策定したいと思っています。

後藤副会長

私達も10年たてば老人になるわけで、運転できるかと言われれば不安です。公共交通などの計画は非常に良いことだと思います。老人が行きやすいアクセスと、若い人たちが将来ここに住んでいたいと思うように、わざわざ市役所に行って申請書を書くよりも、ダウンロードしてメールで添付して送れば良いというような制度があれば良いと思います。

小林会長

私からは基本構想の中で、財源計画があります。例えば今の基本構想の財源はついていますが、もしも新しく土地を取得して作ったとしたらどのくらいの財源が必要なのかと。もちろん土地の安い高いはあると思いますが、資料の1部として提供いただければと思います。

事務局村瀬補佐

昨年、基本構想（素案）を議会に示していますが、素案の中で現在の田沢湖庁舎、西木庁舎、管理棟をつかった場合、新たに用地を取得した場合の比較も行っています。そうした場合は、総事業費は38億程度の経費がかかると想定しています。事業費ばかりではありませんが、アクセスの問題等を考慮して、素案を外したものを皆さんにお示ししています。

小林会長

それではちょうど時間になりました。事務局から何かありますか。

事務局阿部補佐 | 基本構想（案）への意見補強ですが、ご一読いただき、何かご意見があればこの様式を利用いただき、8月10日（月）を目途として提出をお願いします。

事務局 柏谷 | 今後のスケジュールですが、10月に開催しようと思っています。今回いただいた意見を基本構想に反映させていただき、準備が整い次第開催させていただきたいと思います。

小林会長 | それでは閉会させていただきます。

(11:30終了)